

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2015年1月24日発行 第68号

バンコク在住の西川会長から

皆さん、明けましておめでとうございます。

タイは今、乾季。1年でも最も涼しい季節です。年明けから涼しい日が続く、ここしばらくエアコンを使わない夜を過ごしています。思えば去年の今頃、デモが続いて依然解決の糸口が見えないというような記事を書いたものですが、早いもので今となっては、デモがあったことがいつだったか思い出せないぐらい昔のことに感じます。バンコクではデモの心配をすることなく、穏やかな毎日を過ごせるようになりました。日本人観光客の数はまだ回復していませんが、全体では2014年12月の値で前年同月比17%ほど増加していて、特に中国からの観光客は86%増だそうです。最近では、どこへ行っても中国語を耳にすることが多く、チェンマイ大学が部外者の構内立ち入りを禁止したり、タイ系の航空会社の機内で中国人が大騒ぎする動画がインターネット上に投稿されたりするなど、タイでもそのマナーが問題になっています。

マナーと言えば、近年日本へ観光に行くタイ人が増えたことから、在東京タイ大使館がインターネット上に掲載した「日本を旅行する際のマナー10か条」なるものも話題となり、タイの大手の新聞でも紹介されました。その10か条というのは以下のようなものだそうです。

- (1) エスカレーターに乗る際には、関西など一部の地域を除き、左側に立ち、右側は急いでいる人のために空ける
- (2) 地下鉄など公共交通機関では携帯電話で通話せず、マナーモードに切り替える
- (3) 列に横入りしない
- (4) エレベーターに最初に乗った人が、後ろの人が乗る間、「開」ボタンを押し、降りる際には、同じ階で降りる人を先に行かせる
- (5) 商店で代金を支払う際にはトレーの上にお金を置く
- (6) 商店で店員が別の客に対応している際には、話しかけずに待つ
- (7) 公共の場で大声で話さない
- (8) ごみは分別して指定の容器に捨てる
- (9) 車を運転する際は歩行者優先。横断歩道では歩行者が渡り終わるのを待ち、ホーンを鳴らさない
- (10) 食事の際に、自分の箸で他人に食べ物を分けない。

これを読んだ人からは「タイではタイ人が中国人をののしり、日本では日本人がタイ人をののしる」といった書き込みもあったようで、様々な局面でタイ人が公共の「マナー」について意識する機会が増えてるように思います。

そういえば、年末に日本へ帰国した際に見たテレビで、「東京オリンピック前の日本の公共マナーも酷かった、オリンピックに向けて必死のマナー向上運動が繰り広げられた」ということが紹介されていて、思わずにやりとしてしまいました。どこの国も発展していくにしたがって、外国の目を気にして、自分たちの公衆道徳の遅れについても考え始めるということなのではないでしょうか。

以前、あるインタビューで「日本へ行くタイ人にマナーについてアドバイスしてほしい」と聞かれ、「タイ人のマナーは別に悪くないから、特に気にする必要はないですよ」と答えたことを思い出して、日本へ行ったタイ人のマナーがどんなものか確かめたくくなりました。

いずれにせよ、タイ人の意識も国際化していることは確かなのだと感じた年末年始でした。

今年もよろしく願いいたします。

西川 弘達

特集

～奨学生からの手紙～

2014 年度奨学金プログラムの奨学生から届いた手紙などの翻訳作業が終了しましたので、ご紹介いたします。

すみれ基金の学生 Adichat Donpanmuang (又ム) 君からの年賀状



新年おめでとうございます。財団の皆さん、基金の皆さん、僕に勉強するチャンスをくださって大変感謝いたします。田舎の恵まれない家庭の子には生まれて最高のチャンスになりました。夢以上に勉強できたことを家族や社会、国に役に立つように活用したいと考えています。

すみれ基金の学生 Samita Tathakad (ジャー) さんからの年賀状

1 学期目は英語以外なかなかいい成績を出し、平均成績 3.10 でした。

しかし、11 月のロイクラトン祭り（チェンマイではかなり大きなイベント）に踊ることになって、猛烈な練習があったため、踊った後に体調を大きく崩してしまい、

11 月ー12 月にかけて 3 週間入院しました。その後も 1 週間ほど保養しまして、

学校をまる 1 か月休んでいました。



ID : NP-S-050

氏名 : Wattana Sangsuwan(ワッタナー センスワン)くん

手紙 : ドナー様、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。僕は元気です。タイは今雨期で田を耕している時期です。僕も作業を手伝っています。丁度、作業が終わったところでこの手紙を書いています。爪も黒くなりました。何を書けばいいのか分からないほど疲れていますが、感謝の気持ちを伝えたいと思います。むさんや奨学金を届けてくれた方々に逢えてとても嬉しかったです。皆さんが居なければ、今の僕も居なかったと思います。ありがとうございます。



ID : PJ-S-084

氏名 : Wajeeporn Kumboonkerd(ワッチーポーン カンプンクート)ちゃん

手紙 : 私の夏休み(タイの夏休みは3~4月です)

この間の夏休みに、私は家族の為にアルバイトをしました。疲れるときもあるけれど、楽しかったです。この仕事は沢山勉強になりました。問題解決、我慢、そして、自分の与えられた役割で責任を取る事など。その仕事とはドリアンやマンゴスチンの収穫です。朝早く起きて夕方まで仕事をします。疲れましたが、とても誇りに思います。小さな仕事ですが、経験は成長していくのに貴重なものでした。今では、大人の考え方が分かり、両親の気持ちが分かります。それは、子供が楽に学校に行けるように、一生懸命働く、ということです。アルバイトの他に、遊びに行ける機会がありました。丁度その時は、ソンクラーン祭があり、両親と海へ遊びに行けました。その日は、親戚のみんなが集まり、話をしたり遊んだりすることが出来てとても幸せで、その時間は私にとって貴重な時間でした。そして最後に、この奨学金をくれたドナー様に感謝しています。ドナー様には欲しいものが全て手に入るように祈っています。



ID : YT-S-102

氏名 : Montira Boonsang(モンティラー ブونسウン)ちゃん

手紙 : ドナー様、皆様こんにちは。もう一度お逢いできて嬉しいです。

私たちを見捨てずにいてくれて有難いです。毎年、皆様は私達に逢いに来て、話し合い、意見を交換し、親戚のような気持ちになります。皆様にお逢いした時、父親のような感じがして嬉しいです。夏休みは、私はどこにも遊びに行きませんでした。行く場所は田んぼです。薪を取りに行きました。私、母、弟の三人は歩いていきます。片道 6 km、往復で 12 kmです。私や母にとっても可愛そうです。私には夢があります。オートバイがあれば、母を乗せて出掛けることが出来て遠くまで歩かなくてもいいのです。時々、街に行くときは、お金を払って乗せていってもらいます。そうしなければ行けません。お姉さんの給料は、毎月お母さんに渡しますが借金の返済にあてられて、生活費は足りません。お母さんが近所の人にお金を借りに行きます。姉は高校3年生までで、学生を辞めました。収入を得るために働いています。私もはやく働いて、姉の負担を助けたいです。敬具



報告

～外務省とNGOの提携推進会議に参加して～

現在日本が行っている対外援助は外務省が所轄する「ODA」が広く知られており発展途上国には歓迎されています。その全ては日本政府と相手国政府が策定しているため、問題点も指摘されておりました。そういった背景と各国のNGOの活動が定着してきたため、日本政府も「ODA予算をNGOの対外活動に対しても使用する」事を決定し10年近く前から実施してきました。

ただ、国家予算を使用するためNGO側にとっては（通常行う活動に比べて）その申請や報告の煩雑さや厳格さのために、ハードルが高い事が主な原因でNGOからの申請が少なく、NGOの対外活動が採用されるのは年間2～3件に留まっているのが現状です。こういった状況を打開するために、この制度を広く告知し併せて東京以外のNGOの現状と意見を直接聞こうと開催されたのが今回の「提携推進会議」でした。

当日は名古屋のNGOから19団体と名古屋NGOセンター、東京から定期協議会（外務省とNGOが定期的で開催している会合）のNGO側委員から5名が参加して、本会議の前にまずNGO側の意見を整理する為の打ち合わせを行った後に5時間にわたって上記NGOと外務省国際協力局と国際協力機構（JICA）とが参加して本会議と懇親会が行われました。

本会議の名称は NGO・外務省定期協議会 平成26年度「第2回連携推進委員会」というものでした。名古屋から参加したNGOには（当会を含めて）法人化していない団体や常勤有給職員がいない団体も多く、東京から参加した定期協議会の団体は多数の常勤有給職員を抱えて運営している大規模なNGOであったため、本会議の前の打ち合わせでは規模による問題意識の違いがありましたが、今回は小規模NGOの意見を広く吸い上げる事を優先した打ち合わせとなり、私も「専門用語や横文字を避けてやさしい言葉で話し合いたい」や「情報を取りに行くのが不利な（常勤職員がいない）小規模NGOにも資金援助の情報を積極的に流してほしい」等の意見を述べました。本会議においては申請や報告の簡素化を望むNGO側と「税金を使う」ためには一定のレベルは必要であり簡素化はむづかしいとの立場をとる外務省側との違いは平行線のままで、今後とも引き続き歩み寄りの努力をしていく事を確認した事が救いでした。続いての懇親会では外務省やJICAの方たちとも現状に対する認識や今後の方向について意見を交わすことができ、今後ともこういった外部の会合にも積極的に参加していきたいと感じました。

今回判ったのは外務省のODA予算の支援単価は数千万円と大きいため、キャンにとっては当面は対象外と判断しましたが、JICAが窓口で支援するものは何百万円単位の為可能性があると思いました。ただ対象NGOは「特定非営利法人」の有資格団体であることが必要であるため今回知った支援の情報は任意団体であるキャンでは申請できないものでした。

しかし、詳しく聞いてみると現在の「特定非営利法人」資格の要件はこの制度ができた当初と比べると緩和されており、現在のキャンでもさほど無理することなく満たすことができる事も分かってきました。「特定非営利法人格」を得た場合のメリットは各種ありますが、ご寄付頂く皆様にとっては「寄付金額の一定部分が申請によって税額還付される」事や「スタッフ個人が負担する活動資金の一部税額控除」等の恩恵が受けられます。

キャンは現在任意団体の為、この恩恵が受けられません。運営側として心苦しく思っていますが、今回を機に理事会に対して「法人資格の取得の検討」を提案していきたいと思えます。

報告2

～絵本コンクールで2作品が奨励賞に入賞～

図書支援プログラムでは当初（20年～10年位前）は各地の学校に絵本や本を送ってきましたがタイ政府の図書館予算の充実がイサーン地方の学校にも及んできた事や父母からの寄付も増加した事で各校の蔵書数も一定数に増加してきたため、キャンの支援の内容もタイの小学生～高校生の図書館活動を奨励する事が中心になってきています。 その一環として毎年日本各地で開催される「絵本コンクール」にタイ各地の学校から応募があった作品のうち優秀作品を日本語に翻訳して応募しています。



三人姉妹と四色白玉

昨年まで応募していた「岐阜県可児市が主催する絵本コンクール」が終了したため、2014年は富山県射水市の大島絵本館が募集した「手作り絵本コンクール」にタイの各校から応募があった52作品のうち提携団体であるフリーから推薦があった2作品とキャンで選んだ1作品の3作品を応募しました。

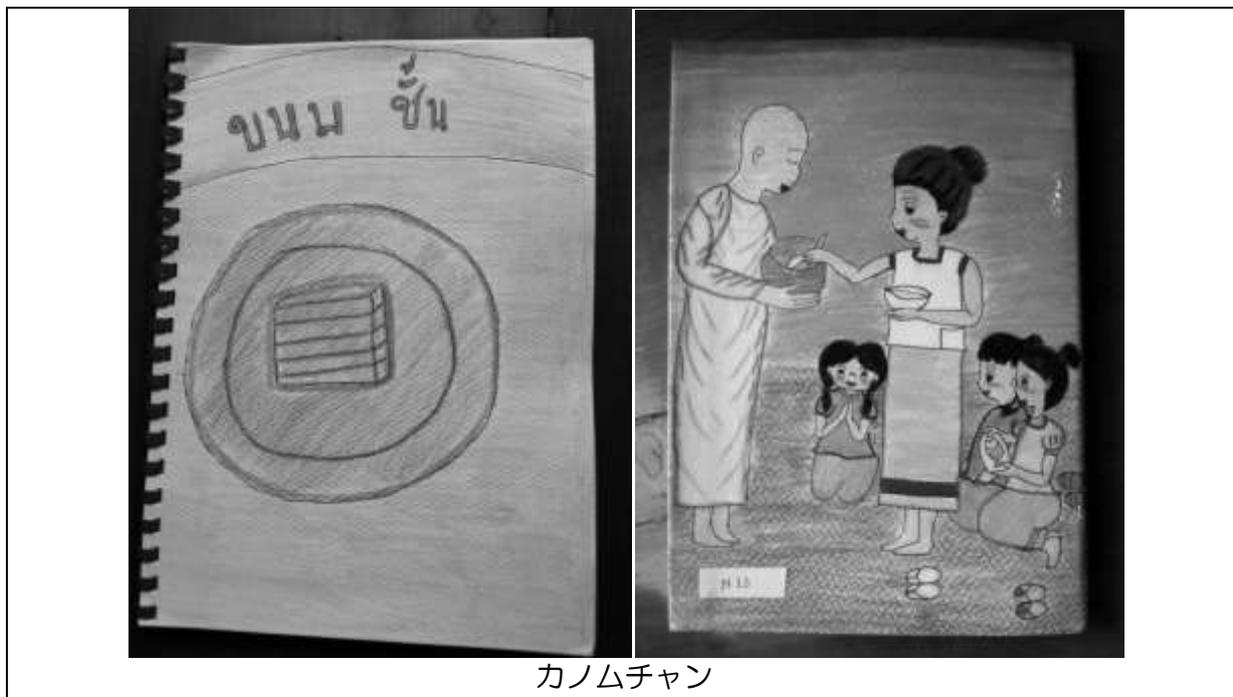


パンのサイズ

9月に応募して11月に結果の通知があり、最優秀賞、金銀銅賞各1点には及びませんでした（応募総数900点以上のうち）高校2年生3名の作品「パンのサイズ」と、小学6年生3名の作品「三人姉妹と四色白玉」が合計20件に贈られる北陸中日新聞社の奨励賞を共に受賞して賞状と記念品を頂き、他の1作品（小学6年生5名の作品「カノムチャン」）も第一次審査を通過した100作品に残るという結果となりました。奨励賞の2作品は10月の入賞作品展に展示され、作者代理のキャンに対して最終日に行われた「表彰式」への招待状が届きましたが担当者の日程調整がつかなかったため今回は出席できず作者の皆さんへ作品展や表彰式の詳しい報告ができなかったことが残念でした。

今回の3作品の作者（合計11名）には「これからもっと絵本作りが好きになってほしい」との願いを込めて今タイでも“擦れば消える”と評判の「フリクションフェルトペン（フリクションボールペンのフェルトペン版）」の5色セットと自由帳（お絵かき帳）をプレゼントしました。喜んでくれるといいですね。

絵本の題材と内容はいずれもタイの子供達の考え方が素直に表われていた3作品でしたが「三人姉妹と四色白玉」や「カノムチャン（お菓子の名前）」はタイの食べ物の様子や作り方も表現されていて私にはとても楽しい作品でした。 報告者 松本



カノムチャン

総会

～2014年度キャンヘルプタイランド総会のご案内～

2014年度のキャンヘルプタイランドの活動の締めである総会を2015年4月12日（日）に当会事務所にて行います。会員の皆様方にはネットワーク通信とは別に会報、議案書、総会出欠確認ハガキを送らせていただきますので、詳しくはそちらをご覧ください。

総会後には、どなたでもご参加いただける懇親会の開催も予定しております。

皆様のご参加をスタッフ一同お待ちしております。

参加者募集

～2015年夏ワークキャンプ参加者募集～

2015年夏、建設キャンプが復活します。タイ東部のサッカーオ県の学校で図書館建設を行います。現地の学校に宿泊しながら図書館の建設作業を手伝います。簡単な作業ですのでどなたでもご参加いただけます。普通の観光旅行や見学だけのスタディーツアーに物足りなさを感じている方はぜひキャンヘルプタイランドのワークキャンプを体験してください。きっと満足いただけると思います。

興味のある方は、事務局までご連絡いただければ詳しい資料をお送りいたします。久しぶりのワークキャンプなので、ぜひご参加ください。



日 時：7月26日（日）～8月6日（木） 12日間

場 所：サッカーオ県バンカオディン学校

費 用：43,000円（航空券別）

※ 部分参加も可能ですのでご相談ください。

予定行程（中部国際空港よりタイ航空午前便を利用の場合）

	日 付	内 容	宿 泊
1	7月26日（日）	中部国際空港セントレア集合（朝） バンコク空港到着（夕方） ワゴン車またはバスでサッカーオ県へ サケオ到着（夜）	ホテル
2	7月27日（月）	買出し（午前） 学校到着（お昼）	学校
3	7月28日（火）	建設作業	学校
4	7月29日（水）	建設作業	学校
5	7月30日（木）	建設作業	学校
6	7月31日（金）	建設作業	学校
7	8月 1日（土）	観光など	学校
8	8月 2日（日）	観光など	学校
9	8月 3日（月）	建設作業	学校
10	8月 4日（火）	建設作業	学校
11	8月 5日（水）	バンコクへ移動（午前） バンコク観光（午後） 空港へ（夜）	機内
12	8月 6日（木）	深夜便で名古屋へ 中部国際空港セントレア着（朝）	

ご利用の航空便により多少行程が変わります。中部国際空港セントレア以外からご出発の方も、7月26日（日）の午後3時（現地時間）までにバンコクスワンナプーム国際空港へ到着していただければ結構です。部分参加をご希望の方は個別にご相談ください。できる限り対応いたします。

訃報

長年キャンに尽力くださった伊藤剛史さん（前会長代行）が、昨年の11月28日に逝去されました。75歳と伺っています。2月ごろから体調崩されて、自宅治療養われておられましたが、11月中旬に急に体調崩され入院1週間ほどで帰らぬ人となりました。

伊藤さんは1996年のワークキャンプからキャンに係わり始め、その後20年近くに渡り理事としてキャンの活動を支えて下さいました。2012年に理事を辞退され、専ら自治会活動に注力したいと強く意志されまして、キャンの役員としての活動から身をお引きになりました。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げます。



後列左が伊藤さん 2008年奨学金授与式にて

キャンヘルプタイランドスタッフ一同

運営委員会

(2014年11月～2015年1月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	11月	事務局	奨学金プログラム資料翻訳会
運営委員会	12月	事務局	2015年建設プログラムについて
運営委員会	1月	事務所	総会、建設プログラムについて

運営委員募集中！

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？

通常は毎月第4土曜日に事務局に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務局へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

先日、タイの協力団体 FREE のムさんから僕のところへメールが来ました。3月にムさんが通訳の仕事で来日するそうです。すごく久しぶりの来日ですので名古屋にも少し寄ってくれるそうです。

3月21日（土）か22日（日）に名古屋駅周辺で来日したムさんを囲んでの食事会を予定しております。参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。どなたでもご参加いただけます。昔、ムさんにお世話になった方もそうでない方も遠慮なくどうぞ。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.68>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2015年1月24日
 住所 〒450-0003
 名古屋市名東区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>